

運動教室実施後の子どもの行動変化について

—年齢、性差、障がいの有無の違いからの考察—

Behavioural Changes in Children after Attending Exercise Classes: An examination by means of age, sex and disability

金子勝司*・大月和彦**

Shoji KANEKO, Kazuhiko OTUKI

要旨：本研究は、筆者等が主催する幼少期の子どもを対象とした『子ども運動教室（障がいの有無を問わない）』において、そこに参加した子どもの保護者（101名）に対して、運動教室実施後（10回プログラム）の子どもの生活面の行動変化について、性差、年齢、障がいの有無の違いから検証を行った。結果、男子では多くの保護者が運動教室を通して、「積極的な行動」「自信がついた」と運動面のみならず様々な場面においてよい行動変化があったことが報告された。女子では、日常の運動に取り組む姿勢の変化が報告され、運動教室参加前の運動量が少ない状況から、運動教室を機に、運動に対して興味、関心が向上し積極的に行動に移す変化が報告された。障がい児では、運動技能習得以上に運動は楽しいものであることを理解し、または運動は対人コミュニケーションの場となり得ることや様々な環境に適応していく為に意味のある活動であることが明らかになった。

キーワード：子ども、運動教室、行動変化

I. 研究目的

子どもの体力低下に関する問題は、1980年代半ばからその傾向が指摘され、2000年代以降は二極化傾向が取り上げられるようになった（文部科学省，2002）¹⁾。これに関連して、子どもの体力・運動能力低下に関しては、「低年齢化」の問題も指摘され（中村，2010）²⁾、子どもの体力低下はすでに就学前に始まるとされている（小林，1999）³⁾。幼児の体力においては、1980年代半ばから低下する傾向が報告されている（森ほか，2010；Sugihara et al.2006；杉原ほか，2007）^{4,5,6)}。さらに、幼児の体力や身体活動における格差・二極化についてもいくつかの報告が

*かねこ しょうじ 客員研究員・大阪体育大学教育学部

**おおつき かずひこ 文教大学教育学部

みられる（池田・青柳，2011，2013；春日，2009；春日ほか，2010；田中，2009）^{7.8.9.10.11}。また、幼児期の身体活動は、その後の体力や生活状況に大きな影響を及ぼすという報告もある（金ほか，2011）¹²。一方、発達障がい児に目を向けると、中島の「発達障害児の活動に運動処方を組み込む意義」によると、運動教室の活動内容を検討することにより、発達障害児にとって運動は楽しいものであること、または運動は対人コミュニケーションの場となり得ること、運動処方は運動への意欲や運動能力を向上させ得ることが明らかとなったと報告されている¹³。よって本研究では、本学の健康福祉実践研究センターで実施している、9・10期子ども運動教室（以下、運動教室）に参加した子どもの保護者に対して、運動教室実施後の子どもの生活面の行動変化について調査を実施し、性差、年齢、障がいの有無の違いから、幼少期における運動の有用性について検証を行う。

Ⅱ. 子ども運動教室について

2012（平成24）年6月にスタートした、大阪体育大学健康福祉学部健康福祉実践研究センター（以下、健康福祉実践研究センター）による運動教室は、地域貢献と学生の指導実践の機会の提供といった2つの目的を持っている。その内容は、運動を得意とする子どもだけではなく、運動が苦手な子どもにも参加してもらい、健常者と障がいがある子どもたちが一緒に楽しめる運動の実践である。また、この運動教室は、健康福祉実践研究センターの教員と学生スタッフ等が中心となり、それぞれの子どものに合った運動プログラムを考え、きめ細やかな実践指導を行っている。走る・投げる・跳ぶといった基本動作の習得、また、とび箱が跳べないなど運動が苦手な子どもには、それぞれの問題を把握し、運動の基本を教えることで課題をクリアしている。また、障がいのある子どもには、保護者との面談を通し、不安要素をヒアリングしながら、それぞれの子どものに適した運動プログラムを考え、弱点を克服し体力の向上を図っていく活動である。実施期間は、9期子ども運動教室は平成27年10月1日～12月17日、10期子ども運動教室は、平成28年4月21日から7月7日。いずれも全10回のプログラムである。

Ⅲ. 実施概要

- 1) 場所：大阪体育大学 第6体育館
- 2) 開催日・時間：平成27年10月1日～12月17日（毎週木曜日 計10回）
平成28年4月21日～7月7日（毎週木曜日 計10回）
- 3) 参加対象：3歳～8歳まで 父兄同伴で参加できる子どもに限定

4) 子ども運動教室の実施日とプログラム内容

実施数	9期	10期	活動内容
1回目	H27.10.1	H28.4.21	レクリエーション運動・基本運動（走る・跳ぶ・リズム）
2回目	H27.10.15	H28.4.28	体力測定+基本運動（走る・跳ぶ・リズム）
3回目	H27.10.22	H28.5.12	マット・跳び箱を使った運動+基本運動（走る・跳ぶ・リズム）
4回目	H27.10.29	H28.5.19	マット・跳び箱を使った運動+基本運動（走る・跳ぶ・リズム）
5回目	H27.11.5	H28.5.26	ニュースポーツ+基本運動（走る・リズム）
6回目	H27.11.19	H28.6.2	鉄棒運動・ボール投げ+基本運動（走る・リズム）
7回目	H27.11.26	H28.6.7	鉄棒運動・ボール投げ+基本運動（走る・リズム）
8回目	H27.12.3	H28.6.23	平均台・なわを使った運動+基本運動（走る・跳ぶ・投げる）
9回目	H27.12.10	H28.6.30	体力測定+基本運動（走る・跳ぶ・投げる）
10回目	H27.12.17	H28.7.7	ダンス+基本運動（走る・跳ぶ・リズム）

5) 参加人数

5) - 1. 9期子ども運動教室参加の内訳

対象年齢	人数	(障あり)
6～9歳	18名	(6名)
5歳	20名	(11名)
4歳	11名	
3歳	8名	
計	57名	(17名)

5) - 2. 10期の子ども運動教室参加の内訳

対象年齢	人数	(障あり)
6～8歳	16名	(4名)
5歳	17名	(7名)
4歳	18名	
3歳	8名	
計	59名	(11名)

IV. 調査の内容

- ・調査目的 9・10期子ども運動教室に参加した子どもの保護者に対して質問紙により運動教室に参加したことによる子どもの生活面の影響について調査を行い、運動教室実施後の日常生活における行動変化について、性差、年齢別、障がいの有無の違いから検証を行った。
- ・調査方法 質問紙による調査（記名式）
調査の目的や回答を拒否した場合、何らかの不利益を被ることがないこと、内容については個人が特定される形では公表しないことなどを口頭で説明し、同意が得られる場合に回答してもらうようにした。
- ・調査対象 9期・10期子ども運動教室に参加した子どもの保護者101名
- ・調査日時 9期：平成27年12月17日 10期：平成28年7月7日
- ・調査内容 教室に参加したことで生活面の影響について（記述式）
- ・回収数（回収率）9期：52部：52／57（91％）内訳：男子31／35（86％）、女子21／22（95％）
障がい有の子ども17／52（33％）
10期：49部：49／59（83％）内訳：男子29／35名（82.9％）、女子20／34（58.8％）
障がい有の子ども11／15（73.3％）

V. 結果・考察

表1. 男子3.4.5歳の保護者回答

性別	年齢	障がい	要 望
男	3	無	益々体を動かすことが好きになった。
男	3	無	人見知りが少し改善した。
男	3	無	ルールを守れるようになった。母なしでも行動できるようになった。
男	3	無	特に変化なしですが、家でも話をするようになったので、楽しいのだと思います。
男	4	無	技術面は伸びたが、生活面にまで変化はない。
男	4	無	少し積極的になってきた。
男	4	無	曜日感覚が出来てきて「教室に行く」準備（気持ち）が自発的にできる様になりました。
男	4	無	友達とよく遊ぶようになり、性格も少し積極的になったと感じます。
男	5	無	ごはんをいつも以上に食べるようになった。
男	5	無	なわとびやボール投げを、突然室内で始めたりします。上手くできると自信になるようで練習も頑張れます。
男	5	無	家でも教室で習ったことを練習したり、できなかったことを悔しがったりして見ていて嬉しかったです。
男	5	無	教室で教えてもらったことを積極的に遊びの中に取り入れている。自信がついた。
男	5	無	自分に自信が出来ました。
男	5	無	負けん気が強くなったような気がします。ボール投げで高く長く投げれるようになった→自信がついた→苦手だったドッチボールができる楽しい→お友達と遊ぶことが楽しくなりました。
男	5	無	ゲーム好きの子でしたが、体を動かすことも好きになってきました。
男	5	無	少し自信がついたようで、注意されたらすぐ「じゅんちゃんのせいです」と悲観的で、ぐじゅぐじゅ言うのが減ったと思います。ボール投げ、自転車など積極的にするようになった。

男子3.4.5歳の保護者回答をみると、多くの保護者が運動教室を通して、日常生活においても積極的な行動になった、自信がついたと回答した。その他、「体を動かすことが好きになった。」「人見知りが改善した。」「ルールを守るようになった。」「家でも話をするようになった。」「技術面が伸びた。」「曜日感覚が出来てきて、自発的にできる様になった。」「友達とよく遊ぶようになり、性格も少し積極的になった。」「ご飯を食べるようになった。」「縄跳びやボール投げを始めた。」「上手くできると自信になり練習している。」「家でも教室で習ったことを練習し、できなかったことを悔しがっている。」「教室で教えてもらったことを積極的に遊びの中に取り入れている。」「負けん気が強くなったような気がする。」「ボール投げで高く長く投げれるようになり自信がつき、苦手だったドッチボールも楽しくなり、お友達と遊ぶことも楽しくなった。」「ゲーム好きでしたが、体を動かすことも好きになった。」「ボール投げ、自転車など積極的にするようになった。」等の回答があり、運動教室の様々な体験が、日常生活において運動量増加につながっている。また、自信を持つことで積極的になった等、日常生活面において心身に良い変化があったことが明らかになった（表1）。

表2. 男子6. 7. 8歳の保護者回答

性別	年齢	障がい	要 望
男	6	無	やれば出来るという自信がついた。
男	6	無	教室以外の運動も積極的にとりくむ様になった。
男	6	無	集中して話がきけるようになった。積極的に参加できる。
男	6	無	早寝早起
男	6	無	前回までは、この教室に必要なものの用意は親がしていましたが、今期からは子供が自分でするようになり、少し自立心ができてきたように感じます。
男	7	無	苦手ななわとびを楽しめるようになった。
男	7	無	自ら進んでボール投げの練習をするようになった。家族で会話が増えた。
男	7	有	知らない子と話すようになりました。
男	7	無	運動をさらに楽しくするようになった。
男	7	無	運動教室へ行く日は、自らすぐに宿題をするようになりました。
男	7	無	学校で休み時間に教室の中でしか遊ばなかった息子が、外遊びが楽しいと言って、休み時間に教室の外で遊ぶようになりました。
男	7	無	教室後は自宅に帰って、ごはんを食べTVをつけず早く寝るようになった。 早く運動教室に行きたいので、宿題を早く終わらせていること。 次回、担当の先生に見せたいからと自らボールを投げる練習をしていた。
男	7	無	毎週たのしみにしていた。
男	8	有	運動に対して前向きになれた。違う年の子とふれ合うことで協調性が出てきた。
男	8	無	学校でしかできない種目（とび箱やマットなど）を教えてもらい細かい所まで指導して頂き、授業でも活かせていると思います。
男	8	無	夜早く寝るようになった。

男子6. 7. 8歳の保護者回答をみると、多くの保護者が運動教室を通して、男子3. 4. 5歳同様に日常生活において積極的な行動、自信がついた等といった良い変化について回答した。その他、「集中して話が聞けるようになった。」「早寝早起」「自立心ができてきた。」「苦手な縄跳びを楽しめるようになった。」「自ら進んでボール投げの練習をするようになった。」「家族の会話が増えた。」「知らない子と話すようになった。」「運動をさらに楽しくするようになった。」「運動教室へ行く日は、自らすぐに宿題をするようになった。」「学校の休み時間は、教室の中でしか遊ばなかった息子が、外遊びが楽しいと休み時間に教室の外で遊ぶようになった。」「運動教室後は自宅に帰って、ごはんを食べテレビをつけず早く寝るようになった。」「早く運動教室に行きたいので、宿題を早く終わらせている。」「次回、担当の先生に見せたいからと自らボール投げる練習をしていた。」「運動に対して前向きになれた。」「違う年の子とふれ合うことで協調性が出てきた。」「学校でしかできない種目（とび箱やマットなど）を教えてもらい細かい所まで指導して頂き、授業でも活かせている。」「夜早く寝るようになった。」等の回答があり、運動教室を通して運動が楽しくなったことで取り組む姿勢や行動力により変化があった回答が多く報告された（表2）。

表3. 女子3. 4. 5歳の保護者回答

性別	年齢	障がい	要 望
女	3	無	よく歩きよく走ってます。
女	3	無	鉄棒や、ボール遊びを自分からやりたいと言ったりしてくれるようになった。
女	3	無	ルールは守るようになった。
女	3	無	色々なことに意欲や意志がでてきた。
女	3	無	体力がついた。人の話を聞くようになった。
女	3	無	スキップが全くできませんでしたができるようになりました。
女	3	無	練習してきたことを家でも自分からするようになった。
女	3	無	スキップが全くできませんでしたができるようになりました。
女	3	無	練習してきたことを家でも自分からするようになった。
女	4	無	幼稚園で苦手だった体育が好きになり、待ちわびるようになった。遊びの中でも、この教室での運動を自らするようになった。
女	4	無	学んだことを家でもやって遊んでいました。
女	4	無	家でも運動する機会が増えた。
女	4	無	家でも運動をするようになった。
女	4	無	自分の苦手なこと、嫌いなことになると、すぐに泣いてしまうことが多かったですが、少しずつ、トライする気持ちが出てきたように思います。
女	4	無	お話を聞く時にお山座りでちゃんと聞いているので幼稚園でもちゃんとできていると思います。
女	4	無	スキップが全くできなかったんですけど、少しコツをつかんできたようで家でも練習するようになりました。
女	5	無	運動が好きになりました。
女	5	無	運動を積極的にするようになった。
女	5	無	自信のある種目が増えました。
女	5	無	集中力がついたと思います。
女	5	無	色々な運動に興味を持つようになった。
女	5	無	日に日に持久力がついてきている気がします！
女	5	無	少しは努力してくれるようになった。
女	5	無	なわとびが前よりも飛べる様になりました。
女	5	無	縄跳びや鉄棒など苦手なこともわかったので、練習したい！という気持ちになった。普段関わることのない学生の皆さんと関わることで、人間性が養われたと思います。
女	5	無	この体操教室が楽しみで、1週間幼稚園もがんばれるようになりました。

女子3. 4. 5歳の保護者回答をみると、多くの保護者が運動教室を通して、スキップや縄跳びができるようになった等、技術面の習得や自宅でも運動する機会が増えた等の取り組む姿勢の変化について多くの回答があった。その他、「よく歩きよく走っている。」「鉄棒、ボール遊びを自分からやりたいと言うようになった。」「ルールを守るようになった。」「色々なことに意欲や意志がでてきた。」「体力がついた。人の話を聞くようになった。」「運動教室でしてきたことを家でも自分からするようになった。」「幼稚園で苦手だった体育が好きになり、待ちわびるようになった。」「遊びの中でも、この教室での運動を自らするようになった。」「運動する機会が増えた。」

「苦手なこと、嫌いなことになると、すぐに泣くことが多かったが、少しずつトライする気持ちが出てきた。」「話を聞く時にお山座りでちゃんと聞いているので園でもできている。」「運動が好きになった。」「運動を積極的にするようになった。」「自信のある種目が増えた。」「集中力がついた。」「いろいろな運動に興味を持つようになった。」「日に日に持久力が付いている。」「少しは努力してくれるようになった。」「縄跳びや鉄棒など苦手なこともわかり、練習したいという気持ちになった。」「普段関わることのない学生の皆さんと関わることで、人間性が養われた。」「この運動教室が楽しみで、1週間幼稚園も頑張れるようになった。」等の回答があり、運動を通して自信がついたことで何事にも意欲的になる等、日常生活においても様々な面においてよい変化もたらされていることが明らかになった（表3）。

表4. 女子6.7歳の保護者回答

性別	年齢	障がい	要 望
女	6	無	運動を積極的にするようになり、もっと上手になりたいと練習するようになった。
女	6	無	教室で学んだことを家でもするようになった。
女	6	無	体を動かすことがより好きになりました。
女	6	無	幼稚園での生活の中で、何事にも積極的にになりました。
女	7	無	できないことも、練習すれば、達成できると実感できたところ。この経験を学校生活でも活かしてほしいです。
女	7	無	外で遊ぶようにもなったし、習った鉄棒も公園で頑張っていました。
女	7	無	お友達とも積極的に外遊びをするようになった。

女子6.7.8歳の保護者回答をみると、多くの保護者が運動教室を通して、運動を積極的に行うようになったことや、外遊びをするようになった、体を動かすことが好きになった等、日常の運動への取り組む姿勢により変化があったと回答している（表4）。その他の回答では、「運動を積極的にするようになり、もっと上手になりたいと練習するようになった。」「教室で学んだことを家でもするようになった。」「幼稚園での生活の中で、何事にも積極的にになった。」「できないことも、練習すれば、達成できると実感できたこと。」「外で遊ぶようになり、習った鉄棒も公園で頑張っていた。」「友達とも積極的に外遊びをするようになった。」等、女子3.4.5歳と同じ傾向にあり、運動教室参加前に比べ、より運動に対して興味、関心を抱き、積極的に行動に移す傾向が明らかになった（表4）。

表5. 障がいのある4.5歳男子の保護者回答

性別	年齢	障がい	要 望
男	4	有	運動教室がある日は着替えを素早くしたり、おやつをすぐ食べて待っていたり時間を気にするようになった。
男	4	有	運動面では走ることが好きでよく走りまわったりスクーターなど積極的にになりました。集中力はかなりあって時間を忘れるぐらいあり。
男	4	有	家でも習ったことをマネして遊ぶ様になった。
男	4	有	運動教室の日はテレビをつけなくなった。よく眠るようになった。スキップなど家で自ら練習する姿もあった。

男	5	有	スキップを覚えた。
男	5	有	手首や手先の動きが以前より滑らかになったような気がします。苦手だったペンやお箸なども、持ちやすくなったようで、全くやらなかったお絵描きもするようになりました。ボール投げや鉄棒なども（苦手でしたが）積極的にやるようになりました。
男	5	有	待つ時は待つということを自覚できてきています。
男	5	有	得意なことは積極的にしています。
男	5	有	公園のアスレチックに行くとき自信を持って色々なものにチャレンジしてくれる様になりました。
男	5	有	グループの活動や同年代の子たちと一緒に居れるようになってきました。

表6. 障がいのある6.7歳男子の保護者回答

性別	年齢	障がい	要 望
男	6	有	まわりのおともだちの行動を少しずつですが見てまねれるようになった。
男	6	有	元気ようになった。走ることが好きになって、鬼ごっこの鬼になっても嫌がらなくなりました（笑）。
男	6	有	音が反響するような場、人の多さでごみごみする場での苦手が少し軽減された。また数回しか会わない程度で相手（学生さん）を信頼できるようになった。
男	6	有	幼稚園での活動が積極的になりました。
男	7	有	ざっくりですが、「健康的」になったような気がします。内面的にも…。

障がいのある男子4.5歳の保護者回答をみると、「運動教室がある日は着替えを素早くしたり、おやつをすぐ食べて待っていたり時間を気にするようになった。」「走ることが好きでよく走りまわり、スクーターなど積極的になった。」「家でも習ったことを真似て遊ぶ様になった。」「運動教室の日はテレビを見ない。」「よく眠るようになった。」「スキップなど家で練習する姿もあった。」「動きが以前より滑らかになった。苦手だったペンや箸なども、持ちやすくなったようで、全くやらなかった絵描きもするようになった。」「ボール投げや鉄棒等も（苦手でしたが）積極的にやるようになった。」「待つ時は待つということを自覚できている。」「得意なことは積極的にしている。」「公園のアスレチックに行くとき自信を持って色々なものにチャレンジするようになった。」「グループの活動や同年代の子たちと一緒にいれるようになった。」等の回答であった。体の使い方を理解することで、絵描きやボール投げ、鉄棒等の積極的行動の意向、時間への意識、運動量の増加やよく眠るといった健康的な生活の変化等、日常生活において様々な効果があったことが明らかになった（表5）。次に障がいのある男子6.7歳の保護者回答をみると、「まわりの友達の行動を少しずつ見て真似るようになった。」「元気ようになった。」「走ることが好きになって、鬼ごっこの鬼になっても嫌がらなくなった。」「音が反響するような場、人の多さでごみごみする場での苦手が少し軽減された。」「また数回しか会わない程度で相手（学生さん）を信頼できるようになった。」「幼稚園での活動が積極的になった。」「健康的になったような気がする。内面的にも…。」といった回答があり、このことから運動面においては、日ごろの運動量の増加や積極的な行動変化がみられ、その他においても対人関係や環境への対応、コミュニケーション面においてよい改善が見られたことが明らかになった（表6）。

表7. 障がいのある女子の保護者回答

性別	年齢	障がい	要 望
女	4	有	より活発になり、暇さえあれば、体を動かし、こちらで教わったことを私共に見せて、出来たことを褒められるのが、嬉しいようです。
女	4	有	人見知りの緩和、優しさ、を学ぶ、チームワークetc.
女	4	有	幼稚園でのダンスなどを積極的に覚えて楽しめるようになりました。自分から何かをするようになった。
女	5	有	走ってくる人や飛んでくる物を怖がるのがやや減ったように思います。
女	7	有	運動が苦手から楽しいに変化した。今までより話しを聞けるようになった。
女	7	有	一斉説明を少しずつ集中して聞けるようになった。

障がいのある女子4.5.7歳の保護者回答をみると、「より活発になり、暇さえあれば、体を動かしている。」「教わったことを私共に見せて、出来たことを褒められるのが嬉しいようです。」「人見知りの緩和、優しさを学ぶ、チームワーク等。」「幼稚園でのダンスなどを積極的に覚えて楽しめるようになった。自分から何かをするようになった。」「走ってくる人や飛んでくる物を怖がるのがやや減った。」「運動が苦手から楽しいに変化した。」「今までより話しを聞けるようになった。」「一斉説明を少しずつ集中して聞けるようになった。」等の回答があり、障がいのある男子6.7歳と同様に、運動面の効果のほかに、対人関係や環境への対応、コミュニケーション面においてもよい改善が見られたことが明らかになった（表7）。

VI. まとめ

運動教室実施後の子どもの生活面の変化について、性差、年齢別、障がいの有無の違いから検証を行った結果、男子3.4.5歳では多くの保護者が運動教室を通して、日常生活においても「積極的な行動」「自信がついた」と回答し、運動面のみならず様々な場面においてよい行動変化があったことが報告された。また、男子6.7.8歳でも、男子3.4.5歳と同様に多くの保護者が運動教室を通して、日常生活においても「積極的な行動」「自信がついた」と回答した。その他、運動面において取り組む姿勢、また技術面の習得に関してよい変化があったことが明らかになった。

次に女子3.4.5歳では、多くの保護者が運動教室を通して「スキップや縄跳びができるようになった」などの運動技術面の習得、「自宅で運動する機会が増えた」等の運動への興味、取り組みについて良い変化があったと述べている。また「運動が好きになる」「自ら進んでやる」といった運動への興味、関心の高まりが日常生活の様々な面において活動的になるといったよい変化がもたらされていることが明らかになった。女子6.7.8歳では、「運動を積極的にする」「外遊びをするようになった」「体を動かすことが好きになった」等、日ごろの運動への取り組む姿勢により変化が報告され、これは女子3.4.5歳と同じ傾向にあり、運動教室参加前の運動量が少ない状況から、運動教室を機に、運動に対して興味、関心が向上し積極的に行動に移すことが明らかになった。

障がいのある男子4.5歳では、時間への意識、運動量の増加、よく眠るといった健康的な生活への変化等、運動面だけでなく日常生活の様々な場面において、よい変化が報告された。障

がいのある男子6.7歳、障がいのある女子4.5.7歳は同様の回答であり、運動教室を通して、対人関係や環境への対応、コミュニケーションにおいて、また運動面においてもよい改善が見られたことが明らかになった。

以上のことから、運動教室後の変化について、「運動能力、技術の習得」といったことだけではなく、自主性や自立心、協調性など身についたという回答が多く報告されており、短期的な運動教室でも、子どもたちのニーズを理解して行うことで、運動面のみならず日常生活において様々な場面でよい変化をもたらすことが明らかになった。よって中島らの「発達障害児の活動に運動処方を組み込む意義」でも報告されているように、障がい児にとってもニーズに合ったプログラムを実施することで、運動技能習得以上に、運動は楽しいものであることを理解し、または運動は対人コミュニケーションの場となり得ることや様々な環境に適応していくのに意味のある活動となり、運動を継続していく要因となることが明らかになった。

参考文献

- 1) 文部科学省 (2002) 子どもの体力向上のための総合的な方策について (答申)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/021001a.htm#g0201
- 2) 中村和彦 (2010) 子どもの動作の発達と指導—体力・運動能力にみる現代っ子の問題—. 子どもと発達発達 8 (1) : 42-45.
- 3) 小林寛道 (1999) 現代の子どもの体力—最低必要な体力とは—. 体育の科学 49 (1) : 14-19.
- 4) 森司朗, 杉原隆, 吉田伊津美, 筒井清次郎, 鈴木康弘, 中本浩揮, 近藤充夫 (2010) 2008年の全国調査からみた幼児の運動能力. 体育の科学 60 (1) : 56-66.
- 5) 杉原隆 (2007) ジュニア期のスポーツ・身体活動の意義. 体育の科学 57 (10) : 724-727.
- 6) Sugihara, T., Kondo, M., Mori, S., and Yoshida, I. (2006) Chronological change in preschool children's motor ability development in Japan from the 1960s to the 2000s. International Journal of Sports and Health Science 4 : 49-56.
- 7) 池田孝博, 青柳領 (2011) 正規分布からの乖離性に基づく幼児期における運動能力の二極化の検討. 発達発達研究 53 : 23-35.
- 8) 池田孝博, 青柳領 (2013) 幼児の運動パフォーマンスの二極化傾向と性、年齢、体力、運動スキルおよび発現契機との関連. 福岡県立大学人間社会学部紀要 22 (2) : 21-34.
- 9) 春日晃章 (2009) 幼児期における体力差の縦断的推移—3年間の追跡データに基づいて—. 発達発達研究 41 : 17-27.
- 10) 春日晃章, 中野貴博, 小栗和雄 (2010) 子どもの体力に関する二極化出現時期—5歳時に両極にある集団の過去への追跡調査に基づいて—. 教育医学 55: 332-339.
- 11) 田中沙織 (2009) 幼児の運動能力と身体活動における関連について; 5歳児の1日の生活からみた身体活動量を中心として. 保育学研究 47 : 112-120.
- 12) 金美珍, 小林正子, 中村泉 (2011) 幼児期の運動や運動遊びの経験が学童期の子どもの生活・健康・体力に及ぼす影響. 小児保健研究 70 (5) : 658-668.
- 13) 中島範子 (2012) 発達障害児の活動に運動処方を組み込む意義. 研究論文集—教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集— Vol. 5 no. 2
- 14) 杉原隆, 近藤充夫, 森司朗, 吉田伊津美 (2007) 1960年代から2000年代に至る幼児の運動能力発達の時代変化. 体育の科学 57 (10) : 69-72.
- 15) 池田孝博 (2016) 幼児期における運動能力の偏りと生活環境要因の関連. 福岡県立大学人間社会学部紀要 Vol. 24, No. 2, 23-39
- 16) 岩崎洋子, 朴淳香 (2004) 幼児期の運動技能と運動能力の関連と課題—運動能力は高く運動技能が低い子の特性の視点から—. 日本女子大学紀要 家政学部 51 : 1-7.
- 17) Jago, R., Macdonald-Wallis, K., Thompson, J.L., Page, A.G., Brockman, R., and Fox, K.R. (2011)